

第3章 都市づくりの将来像

1. 将来都市構造

1-1. めざすべきまちの骨格

(1) 地域の空間構成

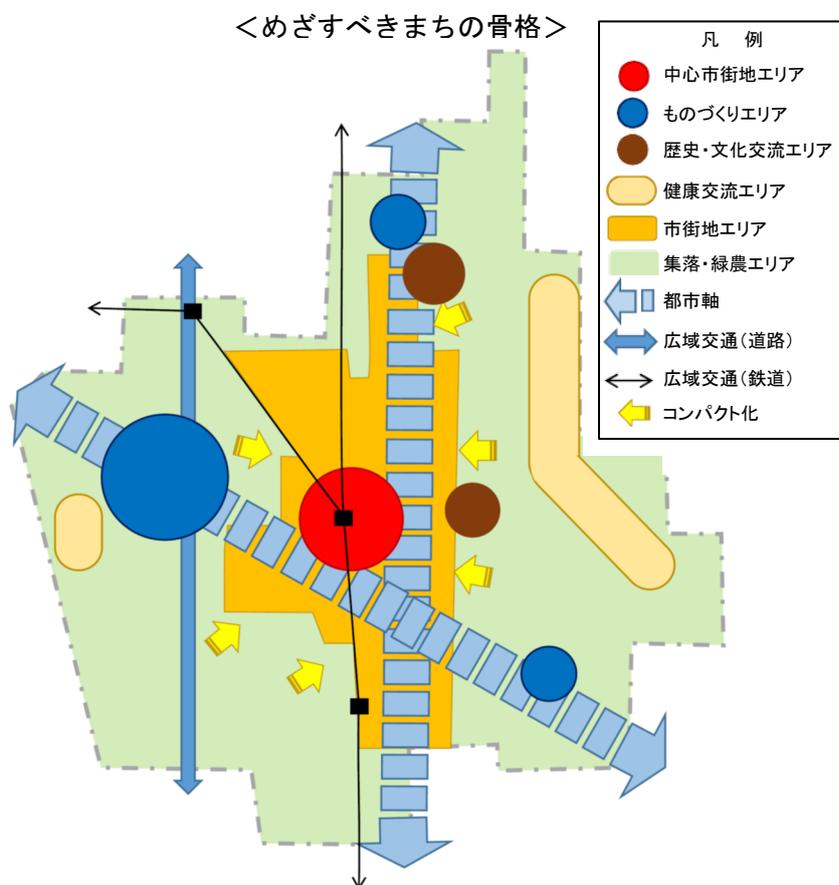
本町の地域空間を概観すると、町域の中央に中心的機能が集積し、その周辺に住居系市街地が広がり、さらにその外側に集落と農地からなる田園地帯が広がる「一核型の地域構造」となっています。

これらの空間を道路と鉄道からなる南北軸と、北西から南東に向かう斜めの軸の2本が地域の主軸となっています。

(2) めざすべきまちの骨格

都市整備の動向をみると、南北軸北側の唐古・鍵地区には、新たな歴史文化を発信する交流機能が整備されています。また、斜めの軸の(仮称)田原本IC付近には、新たな産業系の都市機能が集積してきています。

本町の特徴となっている「一核型の地域構造」と唐古・鍵地区、(仮称)田原本IC付近における新たな拠点づくりを踏まえ、本町のめざすべきまちの骨格を次のように設定します。



★中心拠点と新たな2つの拠点及び2本の都市軸周辺に市街地が集約し、市街地の周辺に集落と農地からなる田園地帯が広がるコンパクトなまち。

1-2. 将来都市構造

本町の将来都市構造は、「田原本町第4次総合計画」では、中心市街地エリア、ものづくりエリア、歴史・文化交流エリア、健康交流エリアの4つの都市拠点を南北軸と、北西-南東軸2本の都市軸で連絡し、市街地エリア、集落・緑農エリアのゾーンにより、都市構造を形成していくこととしています。

将来都市構造の形成に向けた基本的な考え方を下表に示します。

<将来都市構造の形成に向けた基本的な考え方>

分類	区分	整備の方針
拠点	中心市街地エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・本町の中心核として商業機能などの充実 ・交通利便性の強化 ・市街地再開発事業などによるにぎわい創出・住環境整備
	ものづくりエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的なアクセス利便性を活かした商・工・流通系の都市機能の集積 ・周辺の緑農環境との共生
	歴史・文化交流エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・唐古・鍵遺跡史跡公園、道の駅などの観光交流機能の活用と相互連携による機能の強化
	健康交流エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・しきのみちはせがわ展望公園、やすらぎ公園や健康・スポーツ拠点の中央体育館・健民運動場などの人が集まる空間の活用による交流促進
都市軸	南北軸	<ul style="list-style-type: none"> ・京奈和自動車道との役割分担による広域圏との交流強化 ・都市軸沿道での商業系機能、事務所などの業務機能の充実
	北西 - 南東軸	<ul style="list-style-type: none"> ・京奈和自動車道（仮称）田原本ICへのアクセス機能の強化
ゾーン	市街地エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・生活基盤の維持 ・地域活動の支援
	集落・緑農エリア (自然共生と地域活力の向上をめざすゾーン)	<ul style="list-style-type: none"> ・営農環境の充実 ・条里制田園景観の保全